



だっこ通信

第22号

2022. 5月発行



だ い じ ょ う ぶ ・ つ な が る ・ こ そ だ て



あるある話「お手伝いがしたいよ〜」



食事の支度をしていると、子どもがそばに来て「ママのお手伝いがしたい」と言ってきました。さあ、あなたならどうする？ A、B、Cのどのタイプですか？

気持ちは嬉しいけど。

何かできそうなことはあるかなあ。

かえって面倒なことになるのよね。

A：だいじょうぶ。
ママがやるわ。

B：ありがとう。助かるわ。
じゃあ〇〇を運んでくれる？

C：おとなしく座っていて
くれればOK!

子どもは幼いなりに「役に立ちたい」「ママやパパを助けたい」という思いを持っています。「ありがとう」「助かったよ」と喜んでもらえることが何より嬉しいのです。それはやがて、自分が誰かの役に立てるという「自己有用感」や「周りへの思いやり」「優しさ」につながっていきます。できれば、小さなことでもいいのでできそうなことを見つけて、お手伝いのチャンスをあげてください。(もちろん状況によります。)お手伝いを頼むときは安全に気を付け、失敗しても責めないようにしましょう。

〇〇を運んでくれてありがとう!

役に立つなあ。

ありがとう。

助かったよ。



★本日のお題

「ありがとう」の数だけ成長する



まだまだ上手にお手伝いはできませんし、失敗することもあります。それでも周りの大人は「ありがとう」をたくさん言い続けてほしいと思います。「ありがとう」を言われた数だけ、子どもは成長していきます。自己肯定感が高まり、道徳性も育ちます。お手伝いは、学力アップにも関係していると言われていています。なぜなら、積極性や計画性、工夫する力などが身に付き、自ら意欲的に行動するようになるからです。



発行者: さくら市生涯学習課(担当 鈴木)